

講義内容への質問、講義方法への希望、等々

<SRI 農法の要素>

- ・ 1本だと多くの面積を必要として非効率にならないか？
→1本を植えても、4本を植えても、健康な苗ならば収量は変わりません。逆に1本の方が生育初期に光を良く受けて、大きく育つ（スライド 4-18）ところに SRI の魅力（と同時に謎）があるのです。

<間断灌漑>

- ・ なぜ間断灌漑だと連続灌漑よりも収量が多くなるのか？
→多くはなりません。少なくもなりません。
- ・ 灌漑水量が一定でなくても（＝少なくとも）収量が減少しないのか理解できませんでした。
→水を少し少なく与えることで、根が伸びます。

<低炭素稲作>

- ・ なぜ低炭素化が実現するのか？
→メタンは湿地から多く排出します。水田も湿地です。間断灌漑をすることで、湿地の状態を少しだけ乾地に近づけてやることで、メタン排出量が減ります。その際、亜酸化窒素が増えますが、全体としては温室効果ガスが減ります。

<品種と SRI>

- ・ 米の品種によって SRI の効果が出やすい、出にくいなどはあるのでしょうか？
→あるかも知れませんが、あるという報告はいまのところありません。

<導入のきっかけ>

- ・ 「やったことが無い、心配」という理由は、具体的にはどう解消するのですか？
→誰かが勇気を持ってやってみて、それを隣の人が見て、じゃあ自分も、と思うことでしょうか。

<継続性>

- ・ NPO の支援が終わると止めてしまうのはなぜか？管理がたいへんだからか？
- ・ 継続しない理由として、支援の終了がありました。農家が SRI の効果を感じれば継続するのではないか。当事者にとって魅力が少ないのではないか。
- ・ 支援終了時に活動が停止してしまう農家と持続する農家の違いは何ですか？ 地域の人々が自発的に SRI を継続していくために必要なことは何ですか？
→SRI のマイナス面は除草労力の増加です。それを嫌う人には SRI の魅力はありません。

<各国での展開>

- ・ 中国での展開はどうなっているか？ いつ頃までに全面導入を目指しているのか？
→スライド 6-3 に示した通り、試験は行われていますが、農家レベルでの普及はありません。その理由は、私は知りません。調べてみたいテーマのひとつです。

<稲作一般>

- ・ 沖縄が生産の上位に来るのが意外。
→スライド 3-7 では、上位 6 県と下位 3 県を表示しました。沖縄は土壌が稲作に不適で最下位です。
- ・ 有機農業・無農薬栽培が人気だが、環境負荷が大きいのは意外だった。
→有機肥料を施用すると、吸収されなかった有機肥料からメタンが多く排出してしまいます。
- ・ SRI による稲の品質変化はありますか？
→品質の変化は無いと考えています。
→SRI+有機肥料のばあい、有機肥料の効果として「お米の」品質は変わります。
- ・ 業務用の米の値段が上昇していると聞きました。飼料米に移行しているからでしょうか？
→それが理由では無いと思います。
→推測ですが、従来は業務用には安い（不味い）お米を使ってたのが、美味しいお米（高い）を使うようになったように思います。

<その他>

- ・ スライド 11 で、林業からの温室効果ガスが多くなっている。原因は何か？
→申し訳ないですが、詳細は知りません。
→木の生育に際しては、温室効果ガスは出ないと思います。伐採や運搬に多くのエネルギーを使うためかも知れません。
- ・ スライド 6-7 の「わが国において」の部分の説明がよく理解できませんでした。
→除草剤を使わずに機械除草をしたいのですが、そのための除草機械はいま開発中です。
→間断灌漑をする場合、水田を平らにする必要が高まります。水田区画が大きくなると、それだけ平らにすること（均平と言います）が難しくなります。
- ・ Dobermann さん（スライド 6-2）はドイツ人だと思います。ドイツでは米を作っていないのではないですか？
→名前からすると、ドイツ人と思われま。Dobermann さんは、ドイツで米の研究をしているのではなく、フィリピンの IRRI（国際稲作研究所）で働く研究者です。

以上